

桑原地区タウンミーティング

平成23年5月17日（火曜）

【市長】 みなさんこんばんは、野志でございます。平日の夜間にも関わりませず、また、お仕事の帰りかと思いますが、このようにたくさんの方が集まっていたきまして誠にありがとうございます。

タウンミーティングの開催に当たりまして、桑原地区まちづくり協議会の会長また役員の皆様、開催を承諾いただきましてありがとうございます。さて、私は昨年11月28日の選挙で皆様からご信任いただきまして、市長の立場に立たせていただいておりますけど、私の公約のキャッチフレーズが「一人でも多くの人を笑顔に、全国に誇れるわがまち 松山」でございます。一人でも多くの人を笑顔にというのなかなか厳しい世の中でございます。でも、笑顔になっていくということが大事です。笑顔の人としかめ面の人、どちらによって行きたいですか、笑顔の人ですよ。しかめ面の人によっていくと、何か文句言われるんじゃないかと思えます。笑顔は人を集めます。人が集まるとどうなるか、パワーが生まれます、パワーが生まれるといろんなことができます。厳しい時代ではありますけれど笑顔が生まれることが大事だと思います。前向きに、前向きにという考え方ですね。そして、「一人でも多くの方を笑顔に、全国に誇れるわがまち松山」というのは、みなさん、同じ町にずっと住んでいると、自分の町はたいしたことないと、ついつい思ってしまうんですけども、人間、過小評価してしまうんですけどそうじゃないんです。松山は全国に誇れるところがたくさんあるんです。例えば1日一人当たりのゴミ排出量、これは同じ規模の都市と比べなければなりません、50万人以上の都市で1日あたりのゴミ排出量、全国で一番少ないのが松山です。しかも4年連続、全国に誇れますよね。また、俳句甲子園というのをやっております。日本イベント大賞というのをとっております。あの東京マラソンと競って日本イベント大賞をいただいています。まだまだ、挙げだしたらきりがなくらい、あと30分くらい話し続けたいといけなくらい全国に誇れるものがたくさんあります。もう一つだけ言うと、松山は防災士さんの数が全国でいちばんです。千人を超える数、これは日頃はみなさんに災害が起こったときこうすればいいですよという啓発活動をする、いざ災害が起こった場合は避難誘導するそういう方を防災士というんですけどこの人数がいちばん多い。2番どこだと思えますか。2番がどこかと替わって、3番目

が名古屋。名古屋は200万以上の都市なんです、名古屋のほうが4倍多いんですけど、松山が防災士はいちばん多い、こういう風に全国に誇れるものがたくさんあるのが松山なんです。その中の一地区が桑原です。この間、若手の職員を集めての会があったんですけど、松山の魅力なんだと思いますか言って下さい。次々手が上がりました。最初手が上がりにくかったんですけど、職員達に言いました。我々松山市の職員が松山のことをPRできないでどうするんですかと。今治市役所の人が松山のことをPRしてくれますか。東温市役所の人がしてくれますか。松山市役所の間人が松山のことを誇れないと、だれもやってくれないです。これと同じことが桑原にも言えると思います。桑原の方が桑原のことを誇れないと、ほかの地区の方が自慢してくれますか。やっぱり桑原の方が自分のまちを好きになるということが大事だと思うんですね。ですので、きょうは、まず、まちの魅力、桑原地区の魅力についてしっかりと認識していただく、話し合ってもらおうと思います。このまちの特徴をしっかりととらえると、いいまちづくりができます。各地区の魅力をしっかりと出さないと、金太郎飴みたいなまちができちゃうんです、行政主体でやっていくと。そうじゃないんです。地域に住んでいる方が、その地区の魅力を一番わかっているんで、皆さんが主体になってまちづくりをやっていただくことが大切だと思っております。

あと、もう一つ申し上げますと、このタウンミーティングというのは、市役所にとってはちょっと、ある言い方をすると面倒な作業なんです。なぜか。私が申し上げているのは、このタウンミーティングというのは1回ぼっきりにしません。よく何か意見を言ったものの、うやむやになってしまうというのがありますけども、私はそれはいかんと思うんです。タウンミーティングは1回ぼっきりにしません。今回出た意見を持ち帰らせていただいて、ここでお話しできることもありますけども、持ち帰らせていただいて、それは、国の絡むもの、県が絡むものもありますので、1カ月ぐらい、いろいろ調べたらかかってしまいますので、1カ月後ぐらいになるかもしれませんが、必ずお返事をいたします。そしたら、皆さんの方で、こんな意見が返ってきたけども、私らとしては、桑原地区としてはまちづくり協議会があるけん、まちづくり協議会で話し合ってみようかということで、また1つ高い次元でのお話ができるようになります。市役所にとってはちょっと手間のかかる作業なんですけども、この手間のかかる作業をしていこうじゃないかと、市役所の皆さんには言っております。そのしんどさを越えたところに、また、皆さんの笑顔が待っていると思っております。

さて、きょうは、専門的な分野になりますと私が答えられないところもあるかと思
います。やっぱり市の仕事というのは範囲が大きいですからね。保健所もある、ク
リーンセンターもある、競輪場もある、図書館もある。いろいろ幅が広いものです。
です。市の幹部が来ておりますので、ちょっと一言ずつ自己紹介をさせます。

【市民部長】 皆さん、こんばんは。市民部長の三好と申します。このタウンミーテ
ィング全体の統括をさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

【保健福祉政策課長】 こんばんは。福祉関係全般を担当いたします大濱といいます。
よろしく願いいたします。

【都市政策課長】 こんばんは。私は都市整備部関係を担当しております白石と申し
ます。よろしく願いします。

【市長】 都市整備と言ったら、もう一言言ってもらおうと道路とか、どういう感じな
んですか。

【都市政策課長】 ここに書いています生活環境というようなことで、道路整備も大
きなウエイトを占めております。

【産業政策課長】 こんばんは。産業経済部の中西といいます。産業経済部は、経済、
雇用、それと農業、それと、今、市長が取り上げました競輪事業を所管しています。
どうぞよろしく願いいたします。

【教育委員会生涯学習政策課長】 こんばんは。教育委員会を担当しております青木
と申します。どうかよろしく願いいたします。公民館活動とか学校教育とか、そう
いった分野になります。

【消防局総務課長】 こんばんは。消防局の総務課長でございます。消防防災を担当
しております。ちなみに先ほどの防災士の数、第1位は松山市で、第2位が大分市で
ございます。松山市が1,122名なんです、大分市が923名で、名古屋市が922名でござ
います。

【市長】 3位が名古屋ということですね。

【消防局総務課長】 はい。

【市長】 今、大分に追いかられつつありますので、負けるわけにはいきません。
この間も、何とか防災士さんをふやす仕組みがないですかねとお話をしていたところ
です。以上、6名でございます。

ちょっと前置きが長くなってしまいましたけども、きょうは報道の方も来られてお

りますけれども、どうぞ緊張なさらないで、また、あすの朝刊とか、テレビさんが来とったら、あすの夕方のニュースとかになるのかとは思いますが、また、どういふふうに取り上げられるのかなというのを見られるのもよいかと思います。

では、きょうは有意義な時間にできればと思います、前置きが長くなりますが、どうぞよろしく願いいたします。

【司会】 さて、本日のタウンミーティングでは、テーマを3つ用意しております。桑原地区の魅力、生活環境の向上と防災について、まちづくりと福祉対策についての3つですが、これは、参加申し込みの際に、皆様からお寄せいただいたご意見をもとに、桑原地区まちづくり協議会と松山市とで相談し、決めさせていただいたテーマでございます。これらのテーマに沿って、皆様のご意見をお伺いいたします。

それでは、最初のテーマ、桑原地区の魅力について御意見のある方は挙手をお願いいたします。

【男性】 桑原地区まちづくり協議会は、設立して2年が経過いたしました。1年目、2年目にまちづくり計画を策定いたしまして、先日、総会にかけまして、このまちづくり計画を承認いただきました。今夜は、第5回目のタウンミーティングを、この桑原で開催していただきまして、まことにありがとうございます。

この桑原は、昔は純農村地帯で、住民の皆さんは、東の方を向けば淡路ヶ峠に朝日が差して、それとともに田んぼに出て仕事をし、それから石手川に夕日が浮くというような時刻になりますと家路に着くというような、非常に素朴ないい地域だという歴史は持っております。昭和6年にできました桑原小学校の校歌でありますけれども、今言ったことは1番の冒頭に出てまいります。「淡路ヶ峠に朝日入り、石手の川に夕日浮く」と。

淡路ヶ峠は、標高273メートルで、松山城の約2倍の高さであります。登りまして眼下を見下ろすと、桑原の美しいまちが、光景が見えます。また、松山城の方に目を転じますと、松山城を中心に松山市街が開けると。さらに、向こうに目を転ざると、瀬戸内の静かな海が見られるというようなすばらしいところあります。1つの魅力として、これを一層開発していく、できればたくさんの方が登っていただくように、登山道も、まちづくり協議会の淡路ヶ峠登山道整備管理委員会が中心になって、地域の役員さんらが月1回、日曜日に出て、登山道を整備したりしておりますが、ここに、観光特区みたいなものをつくっていただいて、ちょっとお金を投じて、登山道を立派

なものをつくっていただけたら。ちょっと急なところもありまして、高齢者の方も登っていただいて、市街を眺めて長生きしていただくということを思うわけです。それと、1つの観光地として人が来ていただくためには、市の観光パンフレットにもこの淡路ヶ峠を掲載していただければと考えております。

余談になりますが、この淡路ヶ峠の歴史を見ると、我が国の初代総理大臣の御先祖が、戦国時代に淡路ヶ峠の林淡路守通起という方がおられまして、そのずっと10代下った人が伊藤博文公だと本に書いてありますが、そういう由緒ある山であります。

【市長】 淡路ヶ峠についてお話をさせていただきます。淡路ヶ峠に登ったことがある方は手を上げていただけますか。こんなに多いんですね。8割ぐらいの方が登っていらっしゃる。野志さん、ほんとうにすごいきれいな景色が見えるとかやから、一遍上がってみたらいいよと言われていまして、多分、桑原地区に伺ったら淡路ヶ峠の話が出ると思って、何とか、上がってきました。感想を言いますと、桑原中学校の裏のコースから上がったんですね。第1鉄塔まで上がった地点で、これはえらいところに来ちゃったな、大変だなと思ったんですけども。何とかばーっと上がって、休憩をぬくと20分ぐらいでてっぺんまで上がることができました。確かにすばらしい景色ですね。お城が見える、総合公園が見える、海が見える。東温市のほうも見えますかね。ほんとうにきれいな景色だ、すばらしい観光資源だなと思いました。が、あれを小さいお子さんと登るのはちょっと気を使いますね。

繁多寺の方におりました。繁多寺におりる方が早くおりれるかなと思ったら、30分ぐらいかかりますね。もう一個コースがあるんだよと聞いたので、砂防ダムの方からの道も分岐点のところまで上がってみました。岩が登山道にあるので、あそこを道を広くするというのは難しい、石を削らないといけない、せっかくの自然を壊すことにもなりかねないので、砂防ダムの方が比較的緩やかだったので、砂防ダムの方から上がる形がよいのかなと思いました。それについては、私が、今感じたことであって、皆さんがどうしたいのかをまた御希望を聞かなくちゃいけません。

【男性】 その砂防ダムからの道ですが、数年前に松山市で一遍整備をしていただきました。重機を入れまして通れるようにはなったんですが、あそこは地滑り危険地帯なんですよ。それで、砂防ダムができるまで、毎年、雨のたびに石が落ちてきて、改良区の役員は相当難儀したんですよ。それで、県が今あそこへ砂防ダムをつくっていただいとるんですが、あそこへ重機を入れて、どのような道にするかはわかりません

が、重機を入れたままだったら、砂防ダムはすぐにつぶれます。それぐらいな土砂崩れのところなんです。

【市長】 となると、そっちから行くと、また、土砂崩れになってしまうということですか。これは難題ですね。皆さん、何かほか、淡路ヶ峠をどうしたいみたいな御希望はありますでしょうか。

【消防局総務課長】 この改修工事につきましては消防局が担当しているわけではないんですが、そういった危険箇所のパトロールを逐次実施いたしまして、関係課、また県にもそういった要求、要望を強く求めてまいりたいと思っております。

【市長】 桑原のまちづくり協議会では何かこのお話が出ましたか。淡路ヶ峠については。

【男性】 まちづくり協議会ではいろんな計画を盛り込んでおりますけれども、その整備のことは別で、頂上に登ったら1回、夏の日カラオケ大会をやるうとか、あるいは頂上に小さな祠をつくって、登ったら、感謝の意を込めてごあいさつ申し上げるといったようなこと、そういったことを進めたらどうだろうかと思えます。中学校の裏から上がるのが、私は一番好きなんです。振り返って見れば、市内がずっと見えますしね。あそこを登っていると、急なところもあるんです。高齢者が登るのは大変だと思いますが、急なところはコンクリートで階段をつけていただくとかして、そういった整備ができんものかなと。また市の方でお考えいただいて、できることはしていただければと思っております。

【市長】 わかりました。ありがとうございます。そうですね、地元の方がどのようにしたいのか、また教えていただいたらと。

【女性】 私の子どもたちが小学校時代は、6年生が1年生を連れて、淡路ヶ峠に遠足に行っていました。今はわからないんですけども、それがすごく思い出になっておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

【市長】 昨日も行かせていただいて、道の端に木を置かれているとか、歩きやすいように削っているとか、階段状にして上がりやすくしているとか、地元の方がほんとうによくやってくさっているというのは感じました。

私もちょっと思ったのが、林淡路守通起さんの11代後の子孫が伊藤博文公ということで、我が国初の総理大臣ですよね。道後温泉に伊藤博文公が来られて、道後温泉から東の方、淡路ヶ峠を見られて、来年来るときには、御先祖様のゆかりの場所だから

お参りしたいとおっしゃったんやけども、その年に韓国のハルピンで暗殺されるんですよね。その夢がかなっていないので、できたら伊藤博文公を上げらせてあげたい気持ちがあるんですけどね。山口の方で、そんなに遠くないので、伊藤博文公の子孫の方とかいないかなんて思ったりもしたんですけどね。何かいい形で、子どもも上がっていけるような場所にできたらなと思います。

【男性】 桑原地区は、文京町と同じように、教育施設がたくさんあるところです。愛媛大学農学部、連合農学大学院、それから、松山東雲大学、松山東雲女子短期大学、愛媛大学附属高等学校と学校があります。義務教育では、桑原中学校、桑原小学校、北久米小学校、福音小学校。こういった地域で、文教のまちだと言ってふさわしいかと思っております。

【市長】 「アワジガトウゲ」じゃなくて、正式名称が「アワジガトウ」なんですよ。御存じの方はいらっしゃいませんか。何で「アワジガトウ」ってとまっちゃうんですかね。御存じの方はいらっしゃいますか。我々の研究課題ですね。あれ、多分一般の方は何で「アワジガトウゲ」って言わんのじゃろう、言い間違いじゃなかろうかとか。このあたりはちょっと研究課題ですね。

【男性】 野志市長にお願いといたしますか、要望なんですけど、桑原中学校で、8月にリーダー研修会といいまして、子どもたちと一緒に展望台の草引き、清掃活動を行っております。それと、3月に桜植樹、淡路ヶ峠の方に、一応一番強いと言われております陽光を。今年で670本植えました。ぜひリーダー研修会と桜植樹に市長も参加していただければありがたいと思います。2歳の子どもの登って植樹をしておりますから大丈夫だと思います。よろしく申し上げます。

【市長】 わかりました。淡路ヶ峠は1回登りましたので、これなら大丈夫だと思いますので、今度は体があいていたらという形になるとは思いますが。陽光って、こちらゆかりの品種なんですよ。高岡さんだったかな、もうお亡くなりになった方ですけども、戦地に自分の知っている方たちが行って、亡くなってしまった、そういう思いを込めた桜だというふうに聞いております。わかりました。

あともう少しだけ、桑原の魅力はいかがでしょうか。学校が多いところだとお話が出ましたけども、どうでしょうか。

【男性】 桑原地区は非常に歴史的な遺産とか遺跡の多いところなんです。その中で、東野に、東山、松山城の徳川家の初代の城主であります松平定行公という方が、初め

て家光から、松山には徳川の親戚がおらんけん困る、お前行ってくれんかと、従兄ぐらいの方に桑原の城主に行ってくれというんで来られたんですけども、その方が22年ほどは城主を務められて、その後、息子に城主を譲り、そして自分は東野に東山御殿をつくられたんですね。死ぬまでそこに住まわれたんですけども、そう立派な建物じゃなかったんですけども、いろんな池をつくったり、お茶屋をつくったり、当時は非常ににぎやかなところだったそうです。そこに、遺跡もほとんどなくなって、当時、琵琶湖を模してつくったと言われるお山池が残っております。それから、その東の端に観音堂が残っている程度ですね。そして、あと正岡子規と高浜虚子の句碑が2本立っているというふうなところでありますが、散策するには非常にいいところで、桑原地区の1つの魅力にしていけるところじゃないかなと思っております。

【市長】 ありがとうございます。藩政時代のゆかりのものが残っているわけですからね。それでは、もう、魅力は大体一巡したということですね。

【司会】 2つ目のテーマ、生活環境の向上と防災について、そして3つ目のテーマ、まちづくりと福祉対策について、御意見のある方はお手をお上げください。

【男性】 桑原消防分団の団員もしております、消防分団のことでお願いしたいことがございます。今、使っている詰め所が非常に老朽化が激しゅうございまして、建物の内壁、ぼろぼろ崩れてくるような壁にペンキを塗っただけ。内壁も何もない。夏暑く、冬冷たい壁の中で、窓が2つしかない。空調設備すらないという状態です。シャッターも、1回開けてしまえば閉まらない状態が続いております。少しずつ修理はしていただいておりますが、どんと揺れが来ると、ポンプ車を出すことすらかなわないのではないのかなと非常に老朽化した詰め所でございます。先だって、警報が発令されまして、夏の暑いさなかに、詰め所は8畳ほどしかないんですが、そこに10名、数時間おりましたが、非常に蒸し風呂でございまして、冷房もないのかなと言いながら、古い扇風機を回しながらという待機状態でございます。

今現在、学校等の耐震の工事なんかもされていると思いますが、一般市民、地元の財産と命を預かる団員の施設も、もう少し向上をさせていただけないものかなと。ましてや、何か変な傾きが出るとシャッターが開かなくなって、出すべきポンプ車が出ないということも考えられます。そういった面も含めまして、施設をもう一度見直しただけならというお願いでございます。

【市長】 これも皆さんの身近なまちの安全安心だと思いますけども、ポンプ蔵置所、

松山市内に100カ所ぐらいありまして、そのうちの3分の1が以前の耐震基準なんです。ですので、ちゃんと状況を把握して、順次切りかえていくようにしております。シャッターのことなんですけども、乱暴に言うとぶち壊してください、もし開かん場合は。阪神大震災のときにはシャッターが開かなくて、シャッターを壊して出たという例があったかと思います。ですので、出勤できないと意味がありませんので、シャッターを壊して出ていただけたらと思います。

【消防局総務課長】 今、市長が申しましたように、112カ所、松山市全体でございます。そのうち、まだ耐震化ができていない蔵置所が39カ所ございますが、計画的に古い順番に建てかえを行っております。また、2カ所、3カ所ある地域の蔵置所については、1カ所に統合して、クーラー設備とかもつけられるように努力はしているんですが、数が多いものですから。多い中であっても、2階建、退避所つきの蔵置所を優先して建てかえるように進めておりますので、今しばらくお待ちいただければ順番は回ってくると思いますので、よろしく願いいたします。

【男性】 できたら、ポンプ車にも冷房をつけてください。

【市長】 松山は比較的財政状況がいいと聞いておりましたので、中に入って財政事情を見たら、案外厳しいのを感じます。なぜかというと、全体の中で一番大きなウエイトを占めるのが民生費ですけども、これがおよそ40%ほどを占めております。昨年度と今年度で、この民生費が52億円ふえたんです、1年で。やっぱり財政は厳しい。皆さん、お金がないんだと思われると思うんですけども、知恵とアイデアでやっていけることがあると思うんです。こういう場で、皆さんと一緒に、知恵とアイデアを凝らしながらやっていくと、できることは多々あると思っております。

【男性】 桑原地区の農地は、ほとんどが市街化区域内となっております。その市街化区域内の農地が、どういう位置づけなのか。農地には保水機能とか、いわゆる地産地消の農作物をつくっております。ただ、市街化区域内であるがゆえに、固定資産税が非常に高い。桑原で、田んぼでお米をつくって8俵しかできんと。それを農協に出したら8万円しかくれない。固定資産税が14万円来ると、1反で。市役所資産税課から3人来ていただいて説明もしてもらいました。固定資産税は資産税であって所得税じゃない等々と、筋が違うと、まだまだこれから5年、6年かけて、最高、反当は20までは上がっていきますと。市街化区域内の農地は、防災のときにもそれなりの役割も果たすし、保水機能もありますし、地産地消の農作物もつくっております。そうい

う中で、ただ市街化区域内の農地が資産だと、あなた方は財産を持つとるんでしょうかと、それに対しては税金はいただきますよという姿勢だと僕は思うんです。松山市も今言われたように財政が厳しいと、市街化区域内の固定資産税の猶予をすることは大変なんですけど、ばかみたいに安くせんかということはないです。今、桑原で最高が14万円ぐらいが最後には20何万円になると。これがどうにかならんもんかというのが、我々農家、特にお年寄りの悩みなんですよ。

【市長】 市街化区域の農業については、まさに地産地消できる場所だと思うんです。松山は多くの消費者がいる場所ですから、そういった近くでつくれる、ここの畑で、ここの田んぼでつぐられとんじゃなというのがわかれば、まさに顔が見える農業といえますか、安心安全にもつながっていく、地産地消の大事なところだと思っております。また、保水機能、もうじき田んぼに水を張る時期になりますけども、田んぼに水を張ったら地下水につながっていきます。そういう機能もある。そして、災害が起こった際に、ちょっと余裕があるスペースとしても考えることができるので、そういう意味で農地というのは意味があると感じております。

でも、うちも実家に田んぼ、畑、ミカン畑があるんですけども、今、農業しにくい時代になってきております。例えば、農薬をまいたら布団を干すのに困るとか、野焼きすると臭いがつくとか、朝早くするとうるさいとか。何か難しい時代になっていると感じます。

でも、地産地消の大事な場所だと思っておりますので、なんとかいい形で。農業について思うのは、日本は食料の自給率が低すぎます。カロリーベースでたしか40%だったと思うんですけども、ほかの国には100%超えているところもあるんです。輸出できますよというところですけども。もうちょっと地元でつくられている農産物を食べたいな。新鮮なものはおいしいですから。そういういい形でやっていけないかと思っています。

【市民部長】 まことにもって厳しい意見なんですけども地方税法という法律に基づいて課税しておりますので、私から事務的になりますけど、お答えさせていただきます。

評価するときに、調整区域の農地は農地としての評価をする。市街化区域の農地は、農地といえども、宅地であるという形で評価される。これは全国一律で法律で決まるとるんですけども。ただ、非常におっしゃることはよくわかります。多分、生産収入

よりも税金の方が高いじゃないかということなんですけど、ただ、その中でも、一般の宅地よりも低い価格、3分の1程度の評価をしておることが今の現状の中でできる精一杯のことかなと。これは平成15年に税法が変わりまして、3分の1評価をしているんです。それでもまだ市街化の農地は高いというお気持ちはわかるんですけども、税法に基づいておるということで御理解いただけたらと思います。

【男性】 一般の宅地の3分の1ぐらい、雑種地の評価の3分の1でしょう。家が建つと宅地じゃないでしょう。

【市民部長】 家が建つておるところは、200平米の多い、小さいで違いますし、商業地とも違うんですけども、一般の宅地と違って3分の1ぐらいの評価になつとるということで、今の現状ではこれが精いっぱいということなので、御理解いただくようお願いいたします。

【男性】 それはわかるんですが、保水機能とか、災害のときの避難地とか地産地消の農作物をつくつとるというのも、大小斟酌できんのかと年寄りが言うわけです。

【市長】 実はこの間も、高知県で四国市長会議という会議に行ってきたんです。愛媛は11市長が集まります。四国になると38の市長が集まったんですけども、多分同じ悩みを抱えていると思うんですよね。我々、市というのは基礎的自治体といいまして、一番市民の方と接する役所です。ですから、皆さんの声とまさに直接対しているわけで、同じ悩みを抱えているところがあると思うんです。そういう場で持ちよつたら、国に対して要望として上げることができるんですよ。国に対して声を上げていくというのをできますので、今のことも多分よその市も困っていると思いますので、メモしておいてください。お願いします。

【男性】 今の関連で、松山市は4期分割可能で、この前が1期目だったと思うんですが、そのときにつくづく感じたんですが、4分割しても、一括納入しても、金額は同じで、一括納入すれば多少下げていただくとかというのは。どっちみち4回分割しても、やっぱり銀行も手数料が要りますから、4回要るわけですね。市役所にしてもその分だけ減ると思うんですね。西条から来とる人に聞いたら、西条は一括で払ったら3%下がるんだと。10万円納入すれば、3,000円ですかね。ということは、やはり納税の意欲も、全然違うと思うんです。昔は松山市もやっていたという話もお聞きしたので、ぜひ具体的に考えていただければ、やはり一括納入すれば、お互いにことしの1年分は納めたという、あれがあるんじゃないかということで、検討していただいた

らと質問させていただきました。よろしくお願いいたします。

【市長】 私も、以前はまとめて払っていただけたらちょっと安くしますよという制度があったと存じ上げております。そして、税をちゃんと納めていただくために、税金をきちんと納めていただくのを浸透させるためにやったと伺っておりますけれども、ある程度それが浸透したということで、その制度は終わったと聞いておりますけれども、確かに、まとめて払っていただけるんだったら安くするのもありかなというの思いますし。どうなんでしょうかね。今ちょっと思ったんですけども、今は4期分割だったですね。計算しやすいように、1回に5万円としましょうか。年間になると20万円ですか。20万円はよう納めれんけど、5万円ずつやったら納めれる方もおいでるんですかね。行政をやる上でとても難しいのは、4分割やないと払えんという人もおると思うんです。お金持ちの人は20万円ぼんと払えるけん、割引してもらえるんか。私は、そこまでの余裕はないけん、年4回の5万円ずつやったら払えるんじゃという人もおると思うんですよ。行政は、いろんな対象の方がおるけん、難しいところがあると思うんです。

【男性】 一般としては、なかなか払いにくいから4分割やけど、まあ、それを一括で払えるので、多少でも一括にしたら、事務処理もそれだけ少なくて済むのじゃないかというように。

【市民部長】 今、市長が言ったようないろんな考え方もありますし、それから、以前はあって、やめたとの経緯もありますので、これは持ち帰りの上で、また、お答えさせていただきたいと思います。

【市長】 申しあげましたように、必ず返答いたしますので、またちょっと持って帰らせてください。よろしくお願いいたします。

一言だけ。財政が厳しいというお話をしたんですけど、高度経済成長の時代やったらよかったんです。どんどん税収もふえていくという世の中やったら、いろんなことができたんですけども、今はほんとうに国も県も市も財政が厳しい時代になって、もう日本自体が厳しい世の中になっているので、いろいろ皆様にも御負担をおかけしているところがございます。でも、松山市役所としては、皆さんに御負担をかけるだけではないということで、職員の数も、同じ都市規模の中では一番少ない人数でやっておりますので、皆様だけに御負担を強いるということはない、職員の方もしっかりとコスト意識を持ってやっていこうと思っております。

【男性】 青少年育成支援委員をさせていただいております。補導活動を主にボランティアで支援センターを中心にやらさせていただいております。補導活動に関しましては、自分たちで計画して、夜間とか昼間とか、手分けをして回らさせていただいております。そちらの方は、自分たちの計画することですからいいんですが、支援センターの会議がほとんど昼間されます。来月、6月にも2回、昼から夕方までという時間の設定があるんですけど、この辺の改善をお願いできたら。というのは、若い方は仕事に出られて、昼間補導もし、夜も補導し、それで会議も昼間ということになりますと非常に負担が大きくて、次の方を探すときに非常に困難を来しております。交代要員もおりませんということをお聞きもします。ある程度研修などもさせていただくんですけども、それも大いに積極的に参加をしたいんですが、昼間研修になりますと、仕事を休んでということが非常に多くなるわけです。自分たちの資質の向上のためにも、私たちの中にも夜の方がいいという方もおいでますので、一概に言えないんですけども、夜間の講習であるとか、大きな会であっても夜間でもできるような形の考慮をお願いしたい。桑原校区で今10名おります。大分お忙しい方が中心に活動しておりますので、いろいろ配慮をお願いしたいとともに、活動の会議などは夜間に持つていっていただくとありがたいところですが、お願いいたします。

【市長】 まさにしかりと思えますけども、やっぱり経緯があると思えます。これはどうだったんですかね。

【教育委員会生涯学習政策課長】 青少年育成支援委員ですけども、小中学校長と公民館長の推薦をいただいて委嘱をさせていただいて非行防止とか青少年の健全育成にかかわっていただいているんですが、今月の24日に委嘱式があると思うんですよ。そのときに、昼間なんですけども、研修を行います。その後、都合3回あるんですけども、夜も1回実施するようになっております。確かに仕事をされている方は、ちょっと昼間出席しづらいということもあるんですけども、3回のうち1回は、夜にも開催しているということで、できるだけ都合をつけて御出席をお願いしたいと思っております。

【市長】 アンケートとかはとられているんですかね。皆さんの、昼がいいとか夜がいいとかいう希望とかの。

【教育委員会生涯学習政策課長】 実際の出席者を見ても、昼の方が大分多いというのは伺っています。ただ、アンケートというのは特別にはっておりません。

【市長】 アンケートをとったらいいと思うんですよ。結果として、無理して来てくれているのかもしれない。実際どうなるかわからないけど、1回アンケートをとってみて。

【教育委員会生涯学習政策課長】 持ち帰って、関係課の方に話をしてみます。

【市長】 そうですね。ちょっと無理して出てきてくださっているのかもしれない。どうなるかわからないけど、持ち帰らせてもらいます。

【男性】 今のと同じようなことですが、私らも消防団ではやっているんですけども、いろんな訓練とか研修とかが、平日に行われていて、消防団も昔は自営の方だとか農業の方が主体であったので、かなり時間的な融通がきいていたんですけども、今はサラリーマンがふえてきたので、そういう研修等に参加しようと思うと、どうしても会社を休んで出なければいけないことになって、参加しづらい面もあるし、どうしてもやむを得ないときには会社を休んで参加するという形になっとるんですけども、消防の教えてくれる人たちは、平日の仕事内でやっているのも特に支障はないと思うんですけども、我々会社員からすると、平日にやられると、会社の人たちに対して非常に取りにくいということがあるので、できれば、土曜日とかの一般の人たちが休みのときに、消防の人が休日出勤をして講習をしてもらうことも考えてもらって、できるだけ一般市民に負担のかからないようなことをやってもらった方が団員も集めやすいし、そこらあたりのことも考えてもらったらと思います。

【消防局総務課長】 以前は平日に行事を多くしていましたが、今現在、松山市が計画している行事は土曜日と日曜日に計画しているんですけど、今回実施いたします水防演習とか、県・国が実施する訓練につきましては、平日になる場合がございます。消防局が計画している会議行事は、ほぼ9割近くは土曜日、日曜日職員が出勤して実施しているんですけど、それでもまだ平日が多いでしょうか。

【男性】 共済総代会は19日、木曜日の午前中ですね。我々は消防団員として行くわけですから。そういうことも消防団の活動なんですよ。わかりますか。ふだんの日にやってもらうと、私は商売をやめていかないかんです。言ったら、10万、20万の商売を捨てていかないかんとときもあるんですよ。

【消防局総務課長】 帰りまして、共済の事務局にも伝えまして、調整をするようにいたします。

【市長】 確かにそうですね。今、消防団のお話が出たんですけど、会社に勤めて

いる方が多い。以前のように、自営とか農業という方が少なくなって、自分の自由にならない方が多くなっているので、消防団の数は全国的に減少傾向です。でも、松山は幸いなことに、機能別消防団というのがありまして、例えば郵便局の方にまとめて消防団員になっていただく、スーパーの方に消防団員になっていただくとか、会社とか、学生さんになってもらうとか、そういう取り組みをして、消防団員の数は四国で一番です。

女性の消防団員の数は日本一だったと思うんですけど。いい取り組みをしてきたと思いますけども、余り御負担になるといけませんので、その辺は調整をさせていただこうと思います。持ち帰らせてください。

【男性】 今日この会場を使っておりますグラウンドも、先週の日曜日、地域住民400人ぐらい集まりまして、運動会に使わせていただいたんですけども、提案といたしまして、この畑寺福祉センターグラウンドの芝生化についてちょっとお聞きをしたいと思います。市長公約で最初にありました幼稚園の芝生化というの、いろいろ諸問題があって、前向きに進んでいないのかなと思いますが、福祉センターグラウンドについては、当初、地域住民との会の中で、提案として芝生化の話も出ておりました。ただし、そのときはまちづくり協議会という組織ができておりませんので、地域の方で対応が無理だろうということで断念をした経緯もあります。今回、桑原地区にまちづくり協議会もでき、地域の体制も整いつつあります。また、鳥取方式も検討されておりますので、近くには大護幼稚園とか、きらりの森、また児童館が併設をされておりますので、子どもたちが裸足で遊べるグラウンドとして、この校庭を、芝生化でお願いできないかな、また、あわせて地域に委託をしていただければ、あわせて草刈り機等の備品等についても提供をいただければ、地域で芝生化の運動が発展していくのではないかと考えておりますので、よろしく願いいたします。

【市長】 芝生化について申し上げます。これは、大変思い入れの深いところでありまして、市長選挙のときにも、芝生化を公約に掲げておりました。なぜ芝生化をしようと思うか、まとめてお話をさせていただきます。

これは、子どもたちが群れで遊ぶための場所なんです。なぜ群れで遊ぶ場所が必要なのか。私らのころはまだ近所に空き地があったり、公園があったり、帰ったらランドセルをほっぽり出して空き地で皆で遊びよった。年上の子もおる、年下の子もおる。群れで遊びよったんです。群れで遊ぶと、自分はこれをやりたいと自分で表現す

る。意見がぶつかりますから、妥協する、決断をする、工夫する、調和する、そういうのが昔の子どもたちにはあったんですね。でも、今の子どもたちは群れで遊ぶことが少なくなった。例えば、不審者が心配だとか、少子化して、子ども自体の数が減っているとか、塾が忙しいとかありまして、家でインターネットやゲームをやって、群れで遊ぶことが少なくなったんです。どうなるかといったら、話をしません。話をしませんから、いろんな価値観に触れることが少なくなる。いろんな価値観に触れると、ああ、あの子はこういうところがいいんだ、僕はこういうところがいいんだと、自分の価値も認めることができる。小児科の先生とお話ししたんですけど、自分の価値が見出すことができなくて自殺してしまう、自傷行為をしてしまう。そういうのをなくすためには、ちっちゃいときから群れで遊ぶことが必要だ。今の子どもたちって、言われたことをこなす能力は高いんです。メールとか作文を書かせたら上手なんですって。でも、自分で表現する能力は乏しい。群れで遊ぶことが必要です。コミュニケーション能力を向上するために、芝生化を進めようと思います。

子どもたちが遊ぶ場所ですから、ゴルフ場みたいな芝は要らない、少々雑草があっても構わない。鳥取方式というお金の余りかからない、手間もかからない方式があるんです。50センチ間隔にポットの苗を植えていきます。大体植える時期は6月から。地元の方と一緒にやってもらうと、これはなおい。地元の方がその場所に愛着を持っていただけます。芝生の成長にも愛着を感じていただけます。地域と一緒にやってやれば、作業をする人たちがつながりを持てます。また、コミュニティにもつながっていきます。コミュニティにつながると災害が起こった際の助け合いにつながるんですね。これ、コミュニティに大事なことです。ですから、地域の方と一緒に芝生化を進めれば最高だと思っております。

行政が押しつけるのが一番いかんと私は思っておりますので、モデル的に今回は保育所2園、そして幼稚園1カ所でやらせていただきます。全部の小学校、幼稚園、保育所にやろうとまでは思っておりません。メリットが、まず砂ぼこりが立たなくなる。そして、子どもたちがけがを心配することなく、どんどん外に出て遊ぶようになる。熱中症の対策にもなる。さっき言ったように地域のコミュニティにもつながっていければと思うんです。松山は、水が余りありません。この鳥取方式は、そんなには水は要らないんですけど、雨水を貯めるタンクが必要になります。そういう手立て、ちゃんと水の対策もできるところから始めていこうというので、まず保育所2園、幼稚園

1園でモデル的にやってまいります。

前置きが長くなりましたけども、こちらの畑寺の方でも最初やろうとしたんですけども、管理の関係で立ち消えになってしまったんですかね。ですので、地域の方と一緒にやってやることができたなら、これもまた素晴らしいことだと思っております。どれだけの面積をするのかというのが難しくなってきます。駐車場として利用するんだったら、そこに芝を張るのはいかなものかということもありますので、皆さんと一緒にやって、これだけの面積だったらできるとか、これぐらいの手間だったらできるとか。以前の芝生化に比べたら大分手間が要らない、お金も余りかからないものなので、この鳥取方式を皆さんと一緒にやってやることができたらなというふうに思っております。何か補足することがありますか。

【保健福祉政策課長】 先ほど市長が申し上げましたが、問題が何点かございまして、今すぐかかろうとしても、植えつけの時期が6月でございます。それからの水、灌水をするための水を貯めるタンクの準備も必要となってまいります。冬の時期の芝の管理等もございまして、早くとも来年度以降ということになってまいります。今年は非常に難しいかなと思っております。

【男性】 失礼ですけど、タンクはもう設置されています。

【市長】 タンクは、たしかトイレ用の水。

【男性】 雨水ですから、はい、ホース、栓がついておりますので、植えているツツジ等に水をまくための散水用のものは、雨水を使っていると思います。

【市長】 トイレにもたしか使用しているかと思うんですがね。

【男性】 ええ、知っています。

【市長】 トイレでどれだけ使っているかも絡んでくるので。はい、わかりました。

【男性】 自主防災会をやっています。うちの方で訓練をするんですけども、三町の避難場所が北久米小学校になっているですけれども、災害のときにほんとうに行けるかな、通り道も狭いところで、そこで倒壊があると、とてもじゃないが最終までは行けないという事態になるんじゃないかなと。御認識いただければと思います。

【男性】 3月に防災マップを配ってくれまして、どうもありがとうございます。気になるのは一時避難場所がほとんど公園になっております。あれは分館等にはならないんですね。東野下で言いますと、ひがしの北公園が一時避難場所になっているんですけども、この東側に池があります。その池の土手が決壊したら、水がもろに、公園

を覆ってしまいます。町内会の総会でも意見が出たんですけども、一時避難場所を公園から分館に変更できないものか、よろしく願います。

【消防局総務課長】 指定避難場所と一時避難場所なんですが、これも災害の形態によって、その地域で使い分けていただく形で市は指定をしております。ですから、地震の場合、また地震の発生による津波の場合、また大雨の場合と災害によって、一時避難場所は危険である場合は、直接避難所の方に、避難拠点の方に避難していただく、そういった使い分けをしていただけたらと思っています。

【男性】 一般の方は、その使い分けなんてできないと思うんですけども。

【消防局総務課長】 そういう指導を、自主防災組織の連絡会議とか、それぞれの地域の防災士会とかで、今後指導をしてまいりたいと思っております。今回の東日本大震災を受けまして、そういった細かい情報提供を今後消防局もしていかなければならないと思っておりますので、そういった情報を今後伝えてまいりたいと思います。

【市長】 ちょっと驚いたデータがありまして、市民の皆さんが、今後何らかの災害に遭うだろうと予想している方が75%なんですね。この防災マップに書いています。何らかの災害に遭うだろうと思っている人が、松山市民のうちの75%なんですよ。日ごろの備えをしていますか、80%の人がしていないと答えたんです。ちょっと驚くような数字で、75%の人が何かの災害に遭うだろうと思っているんですけども、80%の人が備えはしていないということなんですよ。もうちょっと備えているのかと思ったんで、ちょっと驚いた数字でした。

ことし3月に新しい防災マップを配付したんですけども、以前の防災マップは、はっきりとした色ををつけとったんですけども、目の不自由な方からすると、それがとても見にくいんだそうで、そういうことまで配慮して、もうちょっと見やすい色で、目の不自由な方にも見やすいものをつくりました。3月から皆さんの方にお配りをしたかと思うんですけども、いい情報がたくさん詰まっていますので、また見ていただけたらと思います。

【男性】 きょうはこの畑寺の福祉センターで、タウンミーティングがあるということで、非常に来るのが気楽でした。というのは、バリアフリーであるところで、もう全然気兼ねなく出てこれるところがあるんですけども、残念ながら、まちづくり協議会であるとか、まちの集まりとかは、公民館とかそういう施設を使うことが多いと思います。もしくは分館とか。そういうところのバリアフリー化について、どうお考えなのか。

まちづくり協議会で、役員会とか、月に1回とか2回あります。そのたびごとに役員
の皆さんに手伝っていただいて、2階まで車椅子を持って上がって、最悪の場合は、
つたい歩きができますので、手すりを使って上がるということができんですけど、
それもそう再々というのは、こちらとしてもすごく申しわけない感というのは、出て
きます。

先ほど市長さんの言葉の中にも、コミュニティというお話がありました。そういう
ところを大切に、私たちのような人間も出て行って、一緒に話ができるような状況と
いうところは、ハードは、行政の方でつくっていただきたい。ソフト的な啓発である
とかは、多分まち協とかやっていけるとは思います、ハードは難しい。

あともう一点。防災というお話が出ていますけれども、私は、いわゆる災害時要援
護者に入る人間です。実際には、松山市に申請はしていないんですけれども、松山市
の総合防災訓練であるとか、そういうところでシミュレーションとかはされています。
実際は、救助するところを想定してありますけれども、今回の東日本の大震災を見たら、
その後、避難所でどうするかというシミュレーションができていないことには、
物事が進まないというところがあります。ですから、松山市の方でもそういうところ
を考えたシミュレーションとか、例えばボランティアの受け入れ態勢をどうやってと
いうところまでシミュレーションをやっておいた方がいいと思うところがあります。

【市長】 貴重な御意見をありがとうございます。私、いろいろ行かせていただいて、
驚いたのが、公民館でも3階建てってあるんですね。エレベーターはなくて、階段と
いうところがあるんですね。公民館、おじいちゃん、おばあちゃんとかがよく利用し
ていらっしゃるのに、3階に畳の間があって、一生懸命1階から2階、3階まで上が
っているんですね。それを見て、これは大変だなと思いました。できる限り、皆さ
んが利用しやすい施設にはつくっていきたいと思っています。順次切りかえていき
たいと思っています。

【消防局総務課長】 避難所の災害時要援護者の避難のシミュレーションの訓練はま
だ実際にはしていない、避難まではしておりますが、御助言をいただきましたで、9
月前に実施します防災訓練にも採用させていただいたと思います。ただ、訓練のマ
ニュアル、計画の中には策定されていますので、それを今後、訓練にも取り入れたい
と思っております。ありがとうございました。

【市民部長】 バリアフリー化について、わかる範囲でお答えさせていただきます。

今、新しい公共施設ができるときには、ほとんどの施設でユニバーサルサービスという形でやっているんですけども、古い建物、バリアフリーという考え方ができる前の建物、いろいろ対象の人ができると、それに直すという事例があるんですけど、全般的にやっているかということ、まだまだできていないと思います。これは全庁的にわたりますから、全庁的な意見を集約してからお話しするという形でお答えさせていただきます。申しわけございません。

【市長】 必ず持ち帰って、また反映いたしますので。

【男性】 先ほど、市長さんから、地産地消ということをお話しされたんですが、桑原地区は、昔から柿があったり、ミカンがあったり、イチゴがあったり、大変多かったんです。それで、市としてこの地区の農業を考えておられるのか、そこらあたりがあればお教えいただきたいのが1点でございます。

それと、もう一点は保険料のことで、大変厳しい状況はよく理解はできるんですが、勤めておったときの保険料と今の保険料が余りにも今の方が高すぎるんじゃないかと思うんです。それが2点目。

それと、もう一点は、高額医療の助成があるわけですけども、これには非常に制限があると思うんです。だから、一家全員を集めれば、小さい大きいは関係なく、しかも、病院とかは関係なく、金額を超えれば助成をしていただくような方法にならんのかどうか、ちょっとお教えをいただきたいです。こんな話は、この会には適当なのかどうかはわかりませんが、よろしくお願ひしたいと思います。

【市長】 わかりました。では、1点目の桑原地区での農業のことについてお話をさせていただきます。先ほどお答えしたので、重なるかと思うんですけども、やっぱり地産地消の場としていいと思うんです。大変消費者に近い場所で農業をすることができる。地産地消の場所としていいと思っております。また、今、農業をしたいという方が結構ふえているんですね。退職をした方なんかで、自分でつくったものを食べてみたいという方が大変多いみたいで、例えば耕作放棄地を、市民の方で、農業をやりたい方に、市民農園で開放することができるのかなと。大きい土地じゃなくても、小分けにして市民農園ができるのかなと。そういう展開も考えられるかなと思っております。桑原地区の農業のことについては、私、そんなことを考えております。

【保健福祉政策課長】 国保のお話だろうと思いますが、現状を申し上げますと、22年度の国民健康保険の会計が、今年度末に約1億1,000万円から約1億5,000万円程度

の赤字になるうかと見込んでおります。このままで23年度になりますと、皆様が医療にかかれたときに、十分な手当ができなくなる可能性もありますので、会計自体をしっかりとしたものにしておく必要があると考えております。

国保制度は、給付費の約50%は国からもらえるようになっておりますが、残り50%のお金については、国保に入っている皆さんで御負担くださいという、もともとの国の法律がございます。これは、我々地方自治体1市ではどうにもできない法律でございます。これを超えて手当をしていくということは難しいものと考えており、この赤字解消に向けて、今、職員一同で努力をしている最中でございます。そういった意味も御理解いただいて、今後よろしく願いをしたらと考えております。

なお、医療給付の問題については、これは介護保険制度と国保の医療費については、合算で年度末に御申請をいただく中で還付という制度もございますが、ただ、医療自体だけで御家族全部そろったという制度は、今、ちょっとないので、帰って研究してまいりたいと思います。

【市長】 私が思うのは、我々基礎的自治体と申し上げましたけど、市民の声を直接受ける立場でございます。今、申し上げたように、やっぱり国の枠組みでどうしてもやらなきゃいけないところがあるんですね。国での議論をもっとしっかりと進めていただきたいと思うんです。国会議員の方々、あれだけたくさんいるんですから。政権交代もあって、なかなか難しいのはわかるんですけども、もう少し国の方でしっかりと議論を進めていただけないかなと思っております。

【男性】 先ほどの蔵置所の件なんですが、具体的に桑原分団の蔵置所の修理もしくは建てかえ何十年先になるんですか。

【市長】 これは全体を見ながら、こっちの方が古くなっているとか、建物の状態とか見比べながら、いろんな地区でいろんな思いがあると思いますので、できるだけ早く。

【男性】 小さい修理はしていただくんですけど、時間がかかって直らない。ペンキを塗っても、基礎をやらずに上っ面を塗るだけだから、すぐにはげるんですよ。

【市長】 なるほど、わかりました。

【男性】 何十年と言わずに、直ちにでも、順番が入るときにはぜひやってください。

【市長】 そうですね。今、しっかりとお声を伺いました。

【司会】 それでは、予定の時間がまいりましたので、最後に市長から本日の感想を申し上げます。

【市長】 皆様方、1時間半という長時間にわたりましたけども、最後までありがとうございました。

まず、魅力に始まって、皆さんがお困りの点、何とかならないかなというところもいろいろとお話をさせていただいたと思います。冒頭に申し上げたとおり、1回ぼつきりにすることは絶対にいたしません。持ち帰りまして、国や、また県と絡むようなこともありますので、調べさせていただいて、必ず皆様のところにお答えをお返しいたします。めんどいことをしよう、しんどいことをしようというのが、今の松山市役所のモットーでございます。ここを超えたら、皆さんに笑顔に会うことができると思っておりますので、これからも皆さんの声を、門戸はしっかりと開いてまいりますので、これからもどうぞよろしく願いいたします。きょうはありがとうございました。

(拍手)

了